



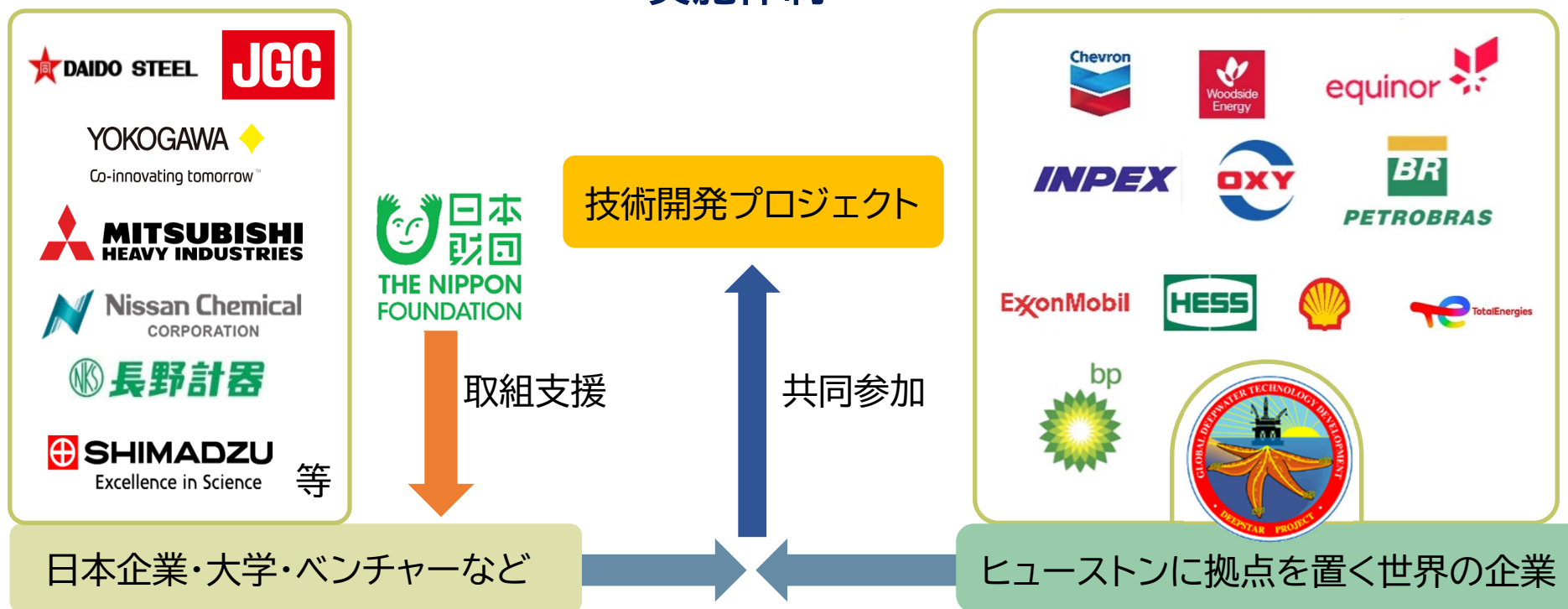
海洋石油・天然ガス分野における脱炭素化等推進に係る
日本財団-DeepStar 連携技術開発助成プロジェクト **第3期**について

日本財団－DeepStar連携R&Dプログラム 実施体制・期待される成果



- 日本財団は日本企業の取り組みを支援、DeepStar※は海洋開発分野の知見・試験フィールドを日本企業等に提供
- 日本企業は、パートナーである世界的大手エネルギー会社のニーズを踏まえ、連携して研究開発することで成果が商用化に結び付くことを目指す

- 実施体制 -



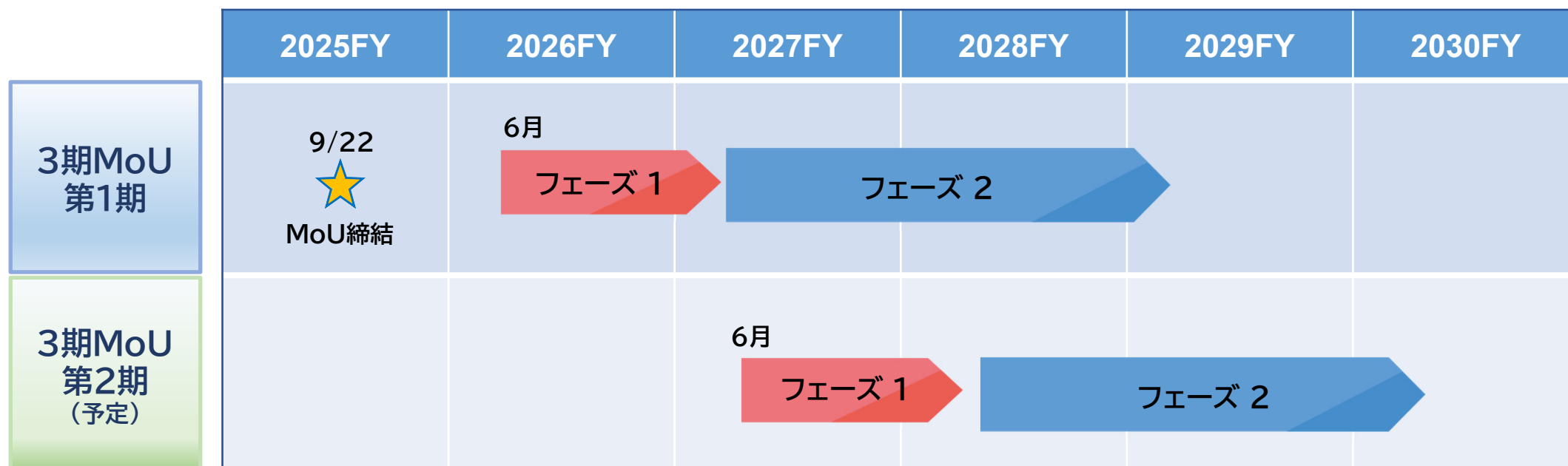
期待される効果

- 技術開発を通じた海洋開発人材の育成
- 世界的エネルギー会社をパートナーにした技術開発による海洋開発事業の拡大
- 新技術で海洋開発産業の拡大(異業種の参画含む)

※ Chevron(米国)、Shell(英)、Equinor(ノルウェー)など、世界で海洋石油・天然ガスの探査・開発・生産を行う企業、これらに製品・サービスを提供する企業、大学、研究機関などから成る海洋技術開発のコンソーシアム

研究開発期間と事業規模

- 本プログラムは、事業期間を2段階(フェーズ1・フェーズ2)に分けて実施
- フェーズ1:DeepStarのコアメンバーの助言、指導を受けつつ短期(1年以内)の研究開発を実施
- フェーズ2:フェーズ1での成果が日本財団、DeepStarコアメンバーから高い評価を得たものに対しさらに内容を深化させ、実用化に近い研究開発を複数年(2年以内)で実施
- 助成規模:1事業あたり上限約1億円 ※うち、フェーズ1は約1,000万円~2,000万円



第3期技術開発テーマ

- 第2期テーマ(脱炭素、安全性の向上)の最新動向を踏まえたテーマを設定

〈第3期テーマ〉

脱炭素

再生可能 エネルギー

- 次世代地熱発電技術
- 海洋再生可能エネルギーを用いた洋上石油・ガス生産施設への電力供給関連技術
- 海洋再生可能エネルギー導入を促進する関連技術

温室効果 ガス削減

- 生産施設における高効率加熱ガス除去・再注入関連技術
- CCSまたはCCUS関連技術
- 洋上施設もしくは再生可能エネルギーからの水素製造・管理関連技術

海洋環境 保全

- 炭化水素等の流出防止にかかるモニタリング及び拡散シミュレーション関連技術
- 随伴水の処理関連技術

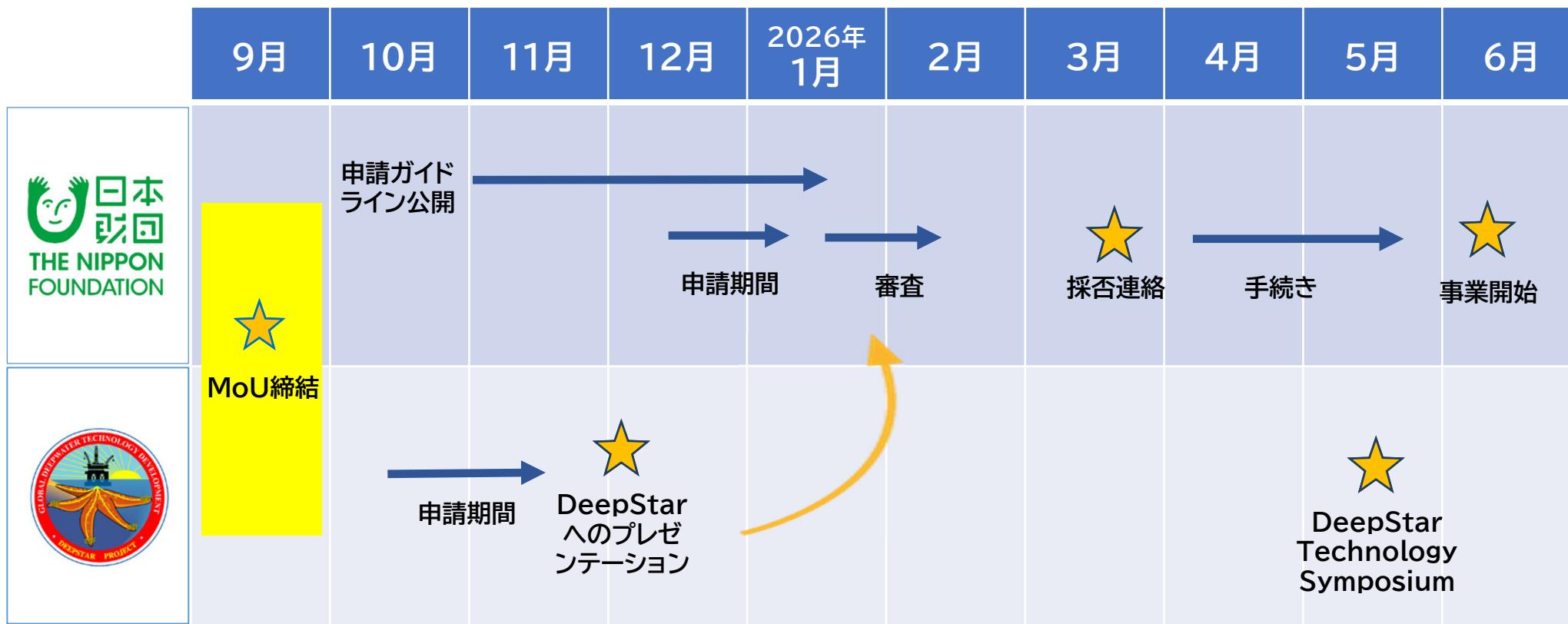
安全性向上

労働環境 安全性向上

- 無人施設等におけるロボットを用いたモニタリング等の安全関連技術
- 生産施設におけるデジタル監視・予測技術

今後のスケジュール

- 10月中旬に申請ガイドラインを公開予定
- DeepStarへのプレゼンは12月を予定(それまでに申請資料(OnePager)を提出)。日本財団への申請は、12月～年明けを予定
- 採否の連絡は2026年3月下旬。5月DeepStar Technology Symposiumで外部発表





お問い合わせ: 日本財団 海洋事業部
ocean_innovator@ps.nippon-foundation.or.jp